

卷頭インタビュー

良

国立科学博物館館長

博

林

科博は基本的に、すぐ役に立つ研究はしない。
やつぱり好奇心が大切だ。

聞き手・渡邊直樹 本誌編集長

写真・河野利彦

国立科学博物館は1年間の見学者数が220万人を超す人気の博物館だ。
林館長は就任以来、意欲的な企画やプロジェクトを
次々に実現するとともに、日本の「ものづくり遺産」の活用にも尽力している。
次世代の元気な科学者・技術者をいかに育てていけばよいのか?

昨年度は221万人を
超える方見ていただいた

渡邊 私も子供のころから科学博物館
が好きで、よく来ていたのですが、最
近の企画力と展示の見せ方、この2つ
が昔に比べて格段によくなってきたと
思います。

林 それはありがとうございます。本
当に企画力は大事ですね。

渡邊 林先生は館長に就任されて何年
になられますか?

林 いま、4年目に入りました。

どを展示した「医は仁術」展とか。展
示物も会場構成もとても良かったです。
林 そうですか、ありがとうございます。
渡邊 けつこうマニアックな企画展で
も入館者は多かったです。

林 うちで来館者が多いのは、やっぱ
り恐龍なんですよ。ついこの間終わ
た恐龍展で50万人来館されました。だ
けど、そればかりやっていると、中核
的な国の中の博物館としての役割を果たせ
ない。だから「医は仁術」展、「南方
熊楠」展とか、当然やるんですよ。

渡邊 あと、筑波の方には産業技術資
料情報センターなどもあるんですね。
林 そうです。うちでは、自然史だけ
ではなくて、科学技術史もやっている
んです。その中で、日本のものづくり
の遺産をどうしても遺そそうというので、
「未来技術遺産」として毎年、表彰し
ているんです。例えば、第一号機だっ

と思いますが、私はあまり優秀な学者

じやなかつたので、良かつたんですけど
ね(笑)。おかげさまで昨年度は上野
本館、筑波実験植物園、白金の附属自
然教育園をあわせて221万人を超え
る方に見学していただきました。

林 そうですね。その前は東大の動物
学の教授が館長になられたことがあります
ましたから、学者は50年ぶりですかね。

渡邊 館長としては博物館の企画を考
える場合に、入館者数とか、経営者と
しての視点も重要になりますよね。

林 そうなんですよ。立派な学者と有
能な経営者とはなかなか両立できない

日本のものづくり
遺産を残すための活動も

渡邊 私がこの数年見て面白かったの
は、「南方熊楠」展とか「石の世界と
宮沢賢治」とか、江戸時代の解剖図な

